

平成28年4月1日

公益財団法人富山第一銀行奨学財団
理事長 金岡純二 殿

助成研究成果概要報告書

教育機関名：富山大学	助成金額：600 千円	
研究代表者：磯部 祐子	所属：人文学部	職位：教授
研究題目：江戸後期の富山における漢文学の受容と展開		

【研究概要】

本研究は、地方と中央の往来が盛んになり、文学作品が出版という形で花開いた江戸後期に着目し、富山ではじめて出版された漢文による文学作品寺崎蛸洲『蛸洲餘珠』をひも解き、中国文化を如何にして自国のものにしていったか、そのことによって地域の文化は如何に創造されていったか、ひいては、地域発の日本文学へどのような影響を与えたかの側面から研究したものである。その成果は、『富山文学の黎明（一）一漢文小説『蛸洲餘珠』（巻上）を読む』（桂書房,2015）として上梓した。

そのことにより、富山の江戸後期の文学作品の解明、そこに展開される文化の実態解明が可能になったのみならず、地方の漢文学のレベル、役割、位置という研究の一事例として全国に提供できた。

【成果要約】

その成果は概ね『富山文学の黎明（一）一漢文小説『蛸洲餘珠』（巻上）を読む』の次のような内容によって見ることができる。

目次

まえがき

第一章 『蛸洲餘珠』の作者

富山の学問環境と二人のアカデミックリーダー

第二章 『蛸洲餘珠』の出版

『蛸洲餘珠』は「小説」

『蛸洲餘珠』執筆の意図一正しい漢文を世に示したい一

蛸洲餘珠序一公刊は日本の漢文力向上のために一

第三章 『蛸洲餘珠』（巻上）を読む

蛸洲餘珠巻上目録

第一話 始祖伝説「六治古」一孝行息子にサケが恩返し一

第二話 列婦一死をも恐れず操を守り抜いた女のはなし一

第三話 繪賈—京商人、天明の大火に地獄を見る—

第四話 某公子—遊郭遊びの悪ふざけ—

第五話 百盲顛踏—けちな医者、祝儀を惜しんで盲人をなぶる—

第六話 宇賀京輔—生き別れた夫婦、討ち入りの日に再会を果たす—

第七話 狐二則—狐の話二つ—

①狐の兔を横取りし、仕返しに人の子の死骸を食わされた下男のはなし

②狐をからかい、仕返しに蛇の卵を食わされた山伏のはなし。

第八話 浴戸某女—凶太い風呂屋の娘、間男しても何喰わぬさま—

第九話 婉童—貴人の粹な計らいで、妾と童が晴れて夫婦に—

第十話 鱧—他人の禪で相撲を取って、うなぎに馬鹿にされるはなし—

第十一話 毛佛翁—毛坊主におちよぐられ調子に乗る下女のはなし—

第十二話 画眉鳥—江戸の貴公子、画眉鳥に導かれ謎の美女との再会を果たす—

第十三話 某貴紳—風流な貴人、洒落た趣向で客の肝を冷やす—

第十四話 禿醫—居留守を隠そうと考えた苦心の策も風呂桶ころんで水泡に帰す—

第十五話 茜姫—美しい姉の觸體を取り戻す—

第十六話 蜃樓—悪人の横恋慕で引き裂かれた夫婦、竜宮王の恩返しで救われる—

第十七話 紅唧唧—その鳥の脳血で描かれたものは画から飛び出して動くと言う—

あとがき

(別添資料)

研究成果 発表状況	【雑誌論文, 学会発表, 図書, 新聞掲載, 研究に関連して作成した Web ページ, 産業財産権 (特許権等) の出願・取得状況について記入】 『富山文学の黎明 (一) 一漢文小説『蛸洲餘珠』(巻上) を読むー』, 桂書房, 全 132 頁, 2015 「江戸時代における『聊斎志異』の受容—『蛸洲餘珠』を例に—」, 『富山大学人文学部紀要第 64 号』 pp.384-402, 2015		
経費の 執行状況	区分	執行額 (円)	備考
	書籍作成料	600,000 円	『富山文学の黎明 (一) 一漢文小説『蛸洲餘珠』(巻上) を読むー』